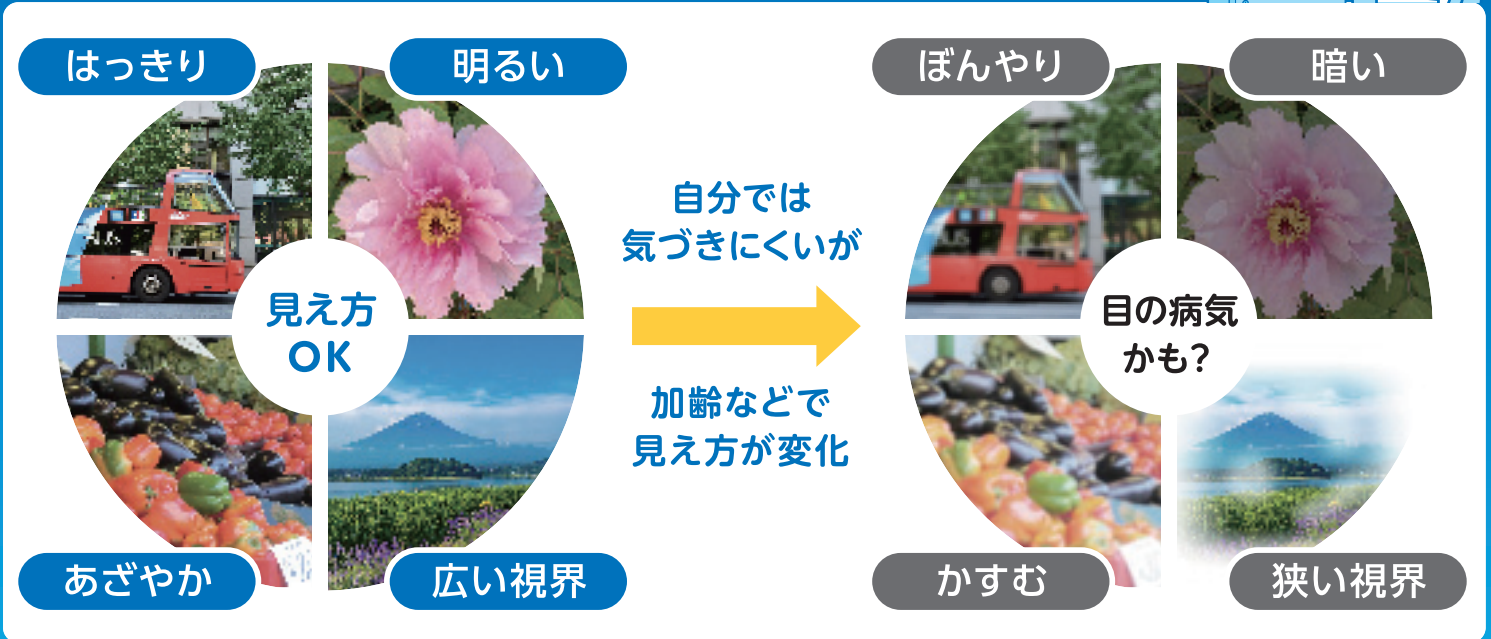


働く人の「見えにくい」を 放っておかないで!

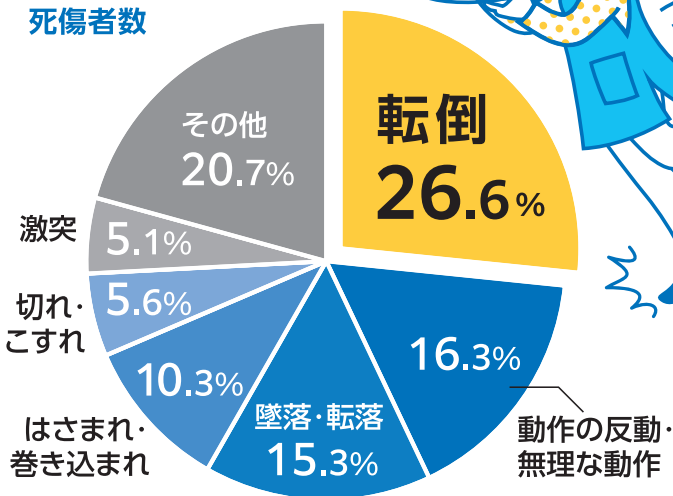


職場の安全点検は、一人ひとりの目の点検から!

転倒の労災休業見込み日数は

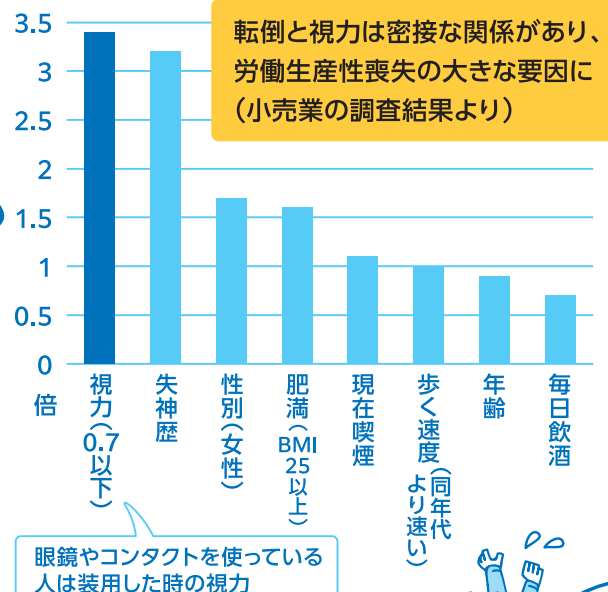
48.5日 (平均)

休業4日以上
の死傷者数



視力0.7以下の転倒災害は

3.4倍



出典:厚生労働省 労働災害発生状況(2023)

河津、志摩ら 第32回日本産業衛生学会全国協議会(2022)

見えにくい状態のまま働いていると、作業ミスや確認不足、事故につながります。
職場の安全を守るため、眼底検査をして目の病気を早期発見しましょう。

「見えにくい」に潜む病気を調べるには？

視力検査だけではわかりません

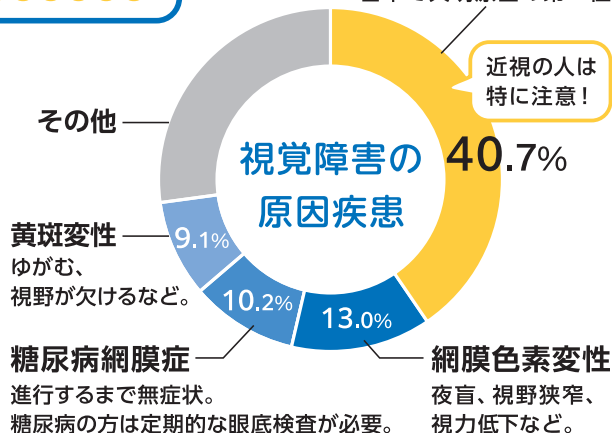
視覚障害の原因の80%以上が眼底の疾患です。機能回復ができないものも多く、早期発見が大切ですが、初期は視力が下がらず自覚がないことが大半です。眼底検査なら早期に眼底の病気を見つけることができます。

年1回、眼底検査を！

緑内障

徐々に視野が狭くなる。日本で失明原因の第一位。

近視の人は特に注意！



黄斑変性
ゆがむ、視野が欠けるなど。

糖尿病網膜症

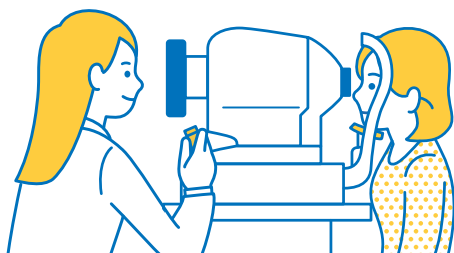
進行するまで無症状。糖尿病の方は定期的な眼底検査が必要。

網膜色素変性

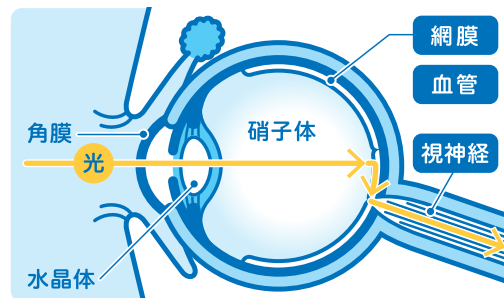
夜盲、視野狭窄、視力低下など。

Matoba R, et al. Jpn J Ophthalmol. 2023

眼底検査ってどんな検査？



眼底とは目の奥部分で、病気を発見するための大事な情報がたくさん詰まっています。眼底検査では、血管や網膜、視神経を調べます。少しまぶしいですが、痛みはありません。



アイフレイル(加齢による目の機能低下)の自己チェックも有効です

2つ以上該当したら眼科医への相談をお勧めしています。目の病気のサインを見逃さないでください。

1 目が疲れやすくなった	2 夕方になると見にくくなるが増えた	3 新聞や本を長時間見ることが少なくなった	4 食事の時にテーブルを汚すことがたまにある	5 眼鏡をかけてもよく見えないと感じることが多くなった
6 まぶしく感じやすくなった	7 はっきり見えない時にまばたきをすることが増えた	8 まっすぐの線が波打って見えることがある	9 段差や階段で危ないと感じたことがある	10 信号や道路標識を見落としそうになったことがある

